

岡村稜雅さん(経営学部3年)が最優秀賞 第8回ブック・アピール・コンテスト受賞者決定

図書館情報センターにて主催する「ブック・アピール・コンテスト」の表彰式が、日進キャンパス在籍者は12月5日(木)学長室にて、MKCキャンパス在籍者は12月4日(水)MKCキャンパス図書館分館CubicLibにおいてありました。日進は佐藤学長より、MKCは後藤副学長より最優秀賞1名、優秀賞2名、佳作3名の学生に賞状と図書カードがそれぞれ授与されました。日進では二宮図書館長、MKCでは内藤学長補佐の同席をいただきました。40作品の応募があり、その内、入賞作品と書籍は図書館情報センターエントランスとMKC図書館分館2階に展示してあります。入賞作品で取り上げられた書籍の貸出を行っています。



MKCキャンパス受賞式参加の皆さん

受賞者のみなさん

最優秀賞

経営学部 3年 岡村稜雅さん
「うたうこと 発声器官の肉体的特質」

優秀賞

- ・心身科学部 3年 長谷川七央さん
「ケーキの切れない非行少年たち」
- ・総合政策学部 4年 浅野広樹
「ウイトゲンシュタイン全集1」

佳作

- ・経営学部 3年 鈴木汰一さん
「ドクラ・マグラ」
- ・経営学部 3年 榊原透威さん
「伝え方が9割」
- ・商学部 2年 多良仁志さん
「なぜ世界の金持ちの35%はユダヤ人なのか？」

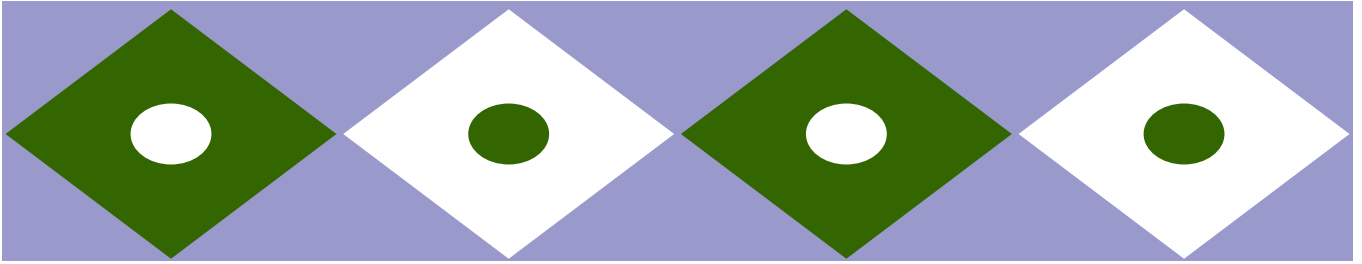
(受賞者の学部、氏名、対象書籍の順に掲載)



日進キャンパス受賞式参加の皆さん

編集後記: 先日、経済協力開発機構が実施した学習到達度調査の結果が公表されました。日本の高校1年生の読解力が8位より15位に低下したとの報告がありました。文科省の分析によると、日本では読書を肯定的にとらえた生徒ほど読解力の得点が高い傾向にあると報告されています。残念ながら図書館における資料の貸出冊数は、減少傾向にあります。ブック・アピール・コンテストは次年度も開催の予定です。このコンテストが本を読むきっかけの一つとなれば幸いです。

(事務長・大平)



最優秀賞受賞‘岡村稜雅’さんの作品

対象書籍名:うたうこと 発声器官の肉体的特質

キャッチコピー:発声練習が必修科目にならない理由を誰か私に説明してください

私は高校時代から声楽を研究しています。長い間学んできたので、声楽に関するブログを開設し、実際に仕事をしたこともあります。そんな私がこの場を借りて、一つあなたにお聞きしたいことがあります。「声を出す」ことについて真剣に考えたことがありますか。この度紹介させていただくフレデリック・フースラー氏の著書のタイトルは『うたうこと』となっています。ですが先に申し上げておきます。私はあなたに「歌が上手くなってほしい」からこの本を紹介しているわけではありません。たとえあなたが歌手を目指さなくとも読む価値があります。こんな経験はありませんか。あなたがまだ園児だった頃、みんなで楽しく歌を歌ったり大声を発したりしたでしょう。それが今はどうですか、物心ついたあなたは人前に立つことが恥ずかしい、もしくは怖く感じたりしませんか。そのときあなたは普段の声が出せますか、出せないと思います。感情と行動は相互に関係し合っています。きっと緊張であなたのパフォーマンスは制限されています。「もっと声を出せるといいね」と言われる光景が目に見えます。ここで一つ良いですか。無理ですよ、頑張っって声を出すなんて。私は心底感じています、「もっと声を出して」を口頭で助言したくらいで解決できる問題ではないのですよ。そんなに甘いものではありません。ここで私の疑問を聞いてください。

なぜ発声練習が教育の必修科目にならないのでしょうか。音楽の授業とはまた違います。声には想像もできないほどの可能性が秘められています。その可能性を追求するために「うたう」訓練はあります。前置きが長くなりましたが、本書では「歌声」を鍛えるための喉や声帯に関する理論が書き記されています。ですが同時に、「うたうこと」と「話すこと」は同じことだと主張しています。私もその通りだと思います。これは経験談ですが、私は歌うために発声練習をしてきました。しかし実際は大勢の人を前に思いを伝える勇氣と自信、もしくは初対面の人と会話をする際の印象付けなどに役立っています。発声練習をする目的は「歌手になるため」がすべてではないのです。現代人は自分の発声を鍛えるより各々の専門知識を学ぶばかりです。もちろん経済学部の学生が経済を学ぶのは当然です。ですがそこで得た知識を発信するのは音声です、声です。あなたの声が美しくなければそれは良い結果にはなりません。内容がいかに優れていても、それがボソボソ弱弱しく自信のない声で伝えられたらどうですか？眠いだけでしょ。嫌ならあなたの声を変えるしかありません。そのためには訓練が必要です。だから私は発声練習の必修化を推奨しています。また、読んでくださったあなたには本書を一度でも読むことをお勧めします。

最後にもう一度だけ言います。あなたがどのような人生を歩むにしても、声と生きているのです。一度声を録音してみてもいいかがでしょう？



受賞作品と対象書籍=図書館情報センターエントランス